

令和8年産 美里地区の稲作情報

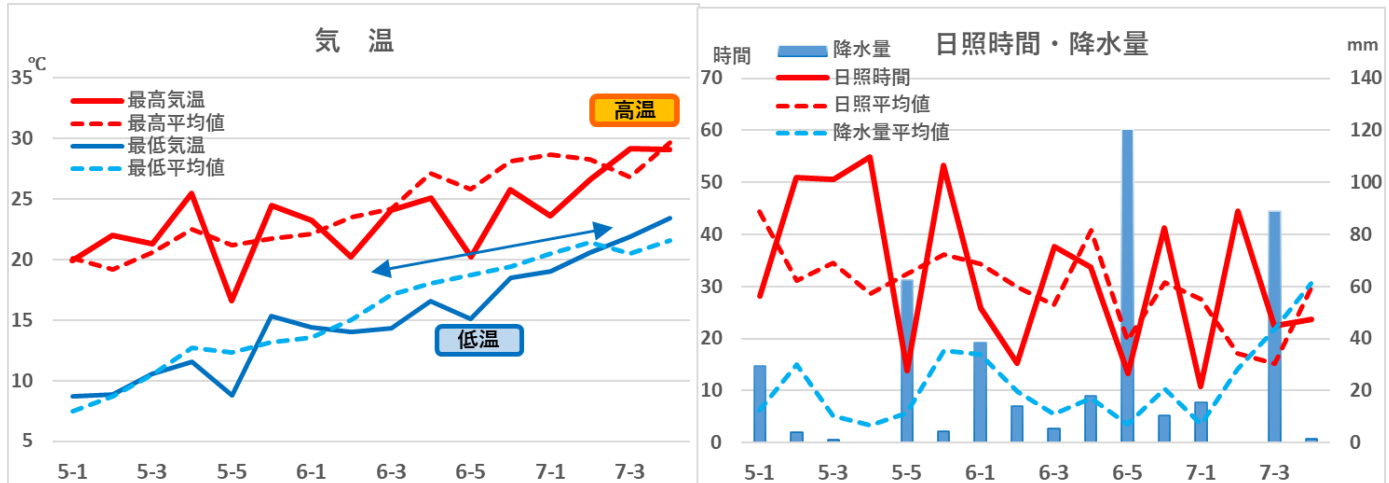
宮城県美里農業改良普及センター 第6号 令和8年7月27日発行

TEL:0229-32-3115

<https://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>



1. 気象経過(図1 鹿島台アメダス)



2. 管内生育経過 (表1)

2. 管内生育経過 (表1)				7月10日調査結果						7月21日調査結果				
調査地点		品種	区分	田植 (播種)日	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)	幼穂長 (mm)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)	幼穂長 (mm)
移植	田尻 (桜田 高野)	ひとめ ぼれ	本年値	5月10日	59.5	541	10.0	37.8	1.6	71.1	471	11.5	31.4	119.9
			前年値	5月3日	76.2	597	10.6	35.6	6.3	81.4	539	11.5	30.1	87.5
			平年値	5月4日	73.0	543	10.6	38.8	5.7	82.7	530	11.7	35.2	117.7
			前年比・差	+7	78%	90%	▲0.6	106%	▲4.7	87%	87%	0.0	104%	32.4
			平年比・差	+6	82%	100%	▲0.6	97%	▲4.1	86%	89%	▲0.2	89%	2.2
	鹿島台 (広長)	つや姫	本年値	5月14日	55.3	403	9.5	43.4	0	80.2	407	11.1	42.4	1.2
			前年値	5月15日	74.5	458	11.1	39.7	0.2	81.9	428	11.9	38.6	1.0
			前年比・差	-1	74%	88%	▲1.6	109%	▲0.2	98%	95%	▲0.8	110%	0.2
	南郷 (和多 田沼)	金の いぶき	本年値	5月17日	62.0	439	9.8	42.4	0	85.4	377	11.4	37.4	8.8
			前年値	5月19日	71.7	502	10.9	38.8	0.4	82.7	459	11.8	37.0	8.7
			平年値	5月10日	68.3	547	11.1	37.7	0.7	83.8	474	12.2	34.0	20.8
			前年比・差	-2	86%	87%	▲1.1	109%	▲0.4	103%	82%	▲0.4	101%	0.1
			平年比・差	+7	91%	80%	▲1.3	112%	▲0.7	102%	79%	▲0.8	110%	▲12.1
乾田 直播	小牛田 (北浦)	萌え みのり	本年値	3月22日	52.8	437	10.1	42.8	0	73.7	518	11.3	45.6	2.5
			前年値	4月7日	67.4	687	9.9	40.7	0.7	77.4	638	10.8	41.7	7.8
			前年比・差	-16	78%	64%	0.2	105%	▲0.7	95%	81%	0.5	109%	-5.3
	南郷 (二郷)	ひとめ ぼれ	本年値	3月25日	50.9	533	9.3	39.7	0	72.1	524	10.7	38.7	4.4

※平年値は過去5年間の平均値。つや姫、萌えみのりはR6年から、南郷ひとめぼれはR8年からの調査。

※金のいぶきは7月9日、22日調査。

7月中旬からの高温により、生育ステージは平年並みに回復しています。

ひとめぼれは、生育量(草丈・茎数)は少ないですが、生育の目安の範囲内です。葉色は平年に比べ低下しています。

つや姫・金のいぶき・直播においては、生育量は少なく、葉色は平年並みか濃い傾向にあります。いずれも幼穂形成期を迎えています。

今後予報通りの気温であれば、管内出穂盛期予測は平年並みの7月30日前後となる見込みです。

2. 今後の管理について

登熟期の高温障害を軽減するため、葉色の低下が見られるほ場では、積極的に追肥を行いましょう。
追肥晩限が近づいています！！

出穂前後は、高温時には「飽水管理」を行いましょう！！

○追肥

表2 穂肥窒素の施用時期と影響

	穂数の増加	1穂穎花数の増加	1穂穎花数の減少防止	登熟の良化	玄米タンパク質の増加
幼穂形成期	○	◎	○		
減数分裂期		○	◎	◎	
穂揃期				○	×

(◎:効果高い、○:効果あり、×:悪影響あり)

減数分裂期の追肥は登熟を良くするほか、特に高温時には、出穂後の葉色を維持することで基白粒などの高温障害の軽減につながります。

高温時に多い基部未熟粒は出穂期以降の葉色と高い負の相関関係にあります。右の図2が示すように、穂揃期の葉色が低い場合は、穂揃期に追肥を行うことで未熟粒の発生を低減することができます。

減数分裂期を過ぎた場合でも、葉色が明らかに低下し高温が続くような場合は追肥を行ってください。

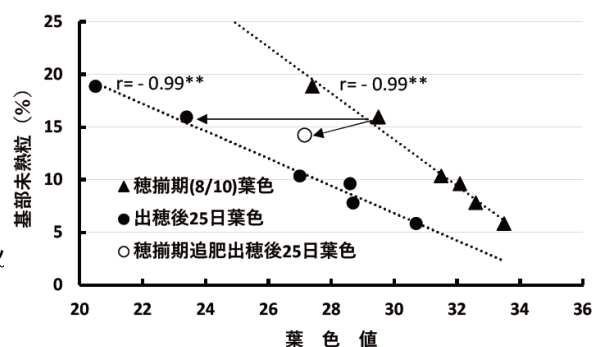


図2 葉色値と基部未熟粒の関係
(「普及に移す技術第99号」より)

○今後の生育ステージ予測

表3 管内の田植始期～田植え終期移植ひとめぼれの生育ステージの予測

移植日	出穂期
5月5日	7/24-7/27
5月12日	7/27-7/31
5月20日	8/2-8/7

※出穂期は主稈葉齢予測モデル(普及に移す技術第80号)と7月22日発表の気象庁1か月予報気温を用いて予測。

今後予報通りの気温の推移であれば、表3および管内の田植盛期から、出穂盛期は7月30日前後と予測されます(平年7月30日)。

7月から9月は 夏の熱中症等声かけ期間です！！

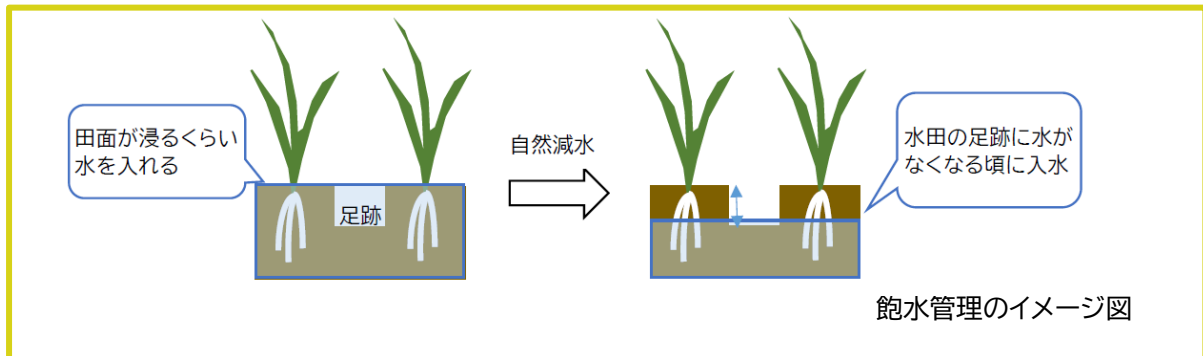
熱中症事故は、周りの人がお互いに気を配り、声をかけ合うことで、防げる可能性があります！
家族、職場、地域全体で、こまめな声かけを行いましょう。

○水管理

出穂前後は稲が水を必要とする時期で、この時期に水分が不足すると、幼穂の発育や開花受精が妨げられ、収量・品質に影響します。基本の水管理は、出穂 10 日後までは浅水管理、その後出穂 30 日後程度までは間断灌水(湛水と落水を数日おきに繰り返す)します。

<高温時の水管理>

高温時に湛水状態を続けると、夜間の水温が高くなり稲体を消耗させてしまいます。用水が限られる場合には、稲体の夜温を下げやすく、根の活力を維持できる「飽水管理」が有効です。



○今後注意が必要な病害虫

①斑点米カメムシ類

発生時期: やや早い 発生量: **多**

7月23日発生予察情報でカメムシ注意報が発表されました！

【水田の管理】

水田畦畔の草刈りは終了してください！

出穂間際の草刈りは成虫を水田内に追い込み、被害リスクを高めます。

【水田の薬剤防除】

- ① 基本の防除体系: 1回目は穂揃期、2回目は穂揃期の7～10日後に実施しましょう。
- ② イヌホタルイ発生水田の場合: 1回目の防除時期を早めましょう。1回目は出穂始～穂揃期に、2回目は穂揃期の7～10日後に実施しましょう。

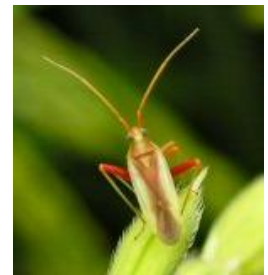


図3 県内の主要種であるアカスジカスミカメ

②紋枯病 発生量: 平年並 (県病害虫防除所発生予察第4号)

高温多湿が発生を助長するとされており、長期予報では発生しやすい気象条件となることが予想されています。昨年の発生量は多く、上位葉に進展し倒伏したほ場も見られましたが、前年発生ほどは伝染源が残っているため発生しやすくなります。

穂ばらみ期の発病状況に応じて、薬剤防除を実施しましょう。

紋枯病の要防除水準(収量5%減)

穂ばらみ期の発病株率

○ひとめぼれ: 18% ○ササニシキ: 10%



図4 紋枯病の発病株
(宮城県病害虫防除所 HP より)